

# 第25回被ばく医療総合研究所 セミナー

**日 時** 平成29年11月22日（水） 16時～17時

**場 所** 保健学研究科E棟2階 第21・22講義室

**演 者** 佐藤 均  
東京大学大学院新領域創成科学研究科 メディカル情報生命専攻  
病態医療科学分野 准教授  
東京大学医科学研究所 連携准教授

**演 題** 「染色体解析から再生医療の現実を考える（温故知新）」  
Regenerative medicine from the standpoint of a cytogenetist

**対象者** 学生、教職員、一般の方

## 要 旨

近年、iPS細胞やES細胞の臨床応用に向けた再生医学領域の研究が急展開を見せている。マスコミに取り上げられた一時的な過熱報道はSTAP細胞事件以降落ち着きを取り戻したようであるが、発生における初期化メカニズムが未だに完全には明らかにされていないこともあり、その臨床応用に対する安全性の評価については、まだまだ慎重に進める必要がある。iPS細胞、ES細胞、組織幹細胞の染色体解析を経験してきた細胞遺伝学者の観点から、加速する次世代シーケンス技術や膨大な量の生物情報データいわゆるビッグデータに基づいた分子生物学的なゲノム情報の網羅的解析も踏まえた上で、臨床応用において留意すべき点について議論してみたい。

また、個人のゲノム情報を扱う「遺伝子検査」や分子診断を背景にした「個別化医療」といった最近の話題にも触れてみたい。

## <参考図書>

「iPS細胞 不可能を可能にした細胞」（中公新書） 黒木登志夫  
「変わる遺伝子医療 私のゲノムを知るとき」（ポプラ新書） 古川 洋一